

みなさんからの陳情は こうなりました

12月定例議会で審査した陳情の委員会意見と、本会議での採決結果を報告します。

陳情の内容	陳情者	委員会の意見・結果	付託委員会	結果
国立病院と地域医療の充実を求める陳情書	全日本国立医療労働組合米子支部 支部長 渡邊和志	国立病院は、政策医療の提供、また地域医療の拠点として、重要な役割を担っている。 賛成4人、継続審査1人で採択。	教育民生	採択
年金2.5%削減中止を求める意見書の陳情	全日本年金者組合鳥取県本部 委員長 増田修治 他1名	物価指数下落と年金との差が2.5%に拡大している。 年金制度の安定性を高め、持続可能な制度にしていくためにも、2.5%削減は必要である。 賛成1人、反対4人で不採択。	教育民生	不採択
原子力から再生可能な自然エネルギーへのエネルギー源の転換を求める陳情書	反核・平和の火リレー 鳥取県実行委員会 実行委員長 小谷明寛	福島第一原発と同等の事故も予想されるなか、日本のエネルギー政策の転換を求める必要もある。 全会一致で採択。	総務	採択
島根原発1号機・2号機の再稼働反対と3号機の建設凍結を求める陳情書	反核・平和の火リレー 鳥取県実行委員会 実行委員長 小谷明寛	島根原発3号機の施設はすでに完了し、原子力規制委員会の検査を残すのみとなっている。国の方針が決まらないなか、結論は出せない。 継続審査3人、反対1人で継続審査。	総務	継続審査

意見書

12月定例議会で委員会から提案された意見書の内容と、採決の結果は次のとおりです。意見書の提出を求める陳情を採択した場合、議会の議決を経て関係機関に提出します。

提出 国

国立病院機構米子医療センターの充実強化を求める意見書

地元の独立行政法人国立病院機構米子医療センターは、国が担うべき医療として適切な医療の提供を行って、地域医療を支えている。
全国各地で、公的病院の閉鎖や医師・看護師不足などが問題となっているが、いつでも・どこでも・だれでも安心して医療を受けられる体制の確立は、住民の切実な願いである。

可決

原子力から再生可能な自然エネルギーへのエネルギー源の転換を求める意見書

2011年3月に発生した東日本大震災で、東京電力福島第一原発の事故が起きた。事故発生から1年以上を経て、なお15万人が避難生活を余儀なくされている状況である。日本が世界一の地震国であるという避けがたい事実を十分にふまえて、原子力発電を基幹とする国のエネルギー政策そのものの転換が必要である。

可決

提出 県

「鳥取県保健医療計画」に関わる意見書

独立行政法人国立病院機構米子医療センターの役割・機能(がん・脳卒中、糖尿病、救急医療、災害医療、へき地医療、小児医療)を計画に位置づけること。

可決